

会議名	平成 27 年度 第 1 回鹿屋市スポーツ推進審議会
日 時	平成 27 年 5 月 11 日 (月) 15 時~16 時 15 分
会 場	鹿屋市役所 7 階 大会議室
出席者	委員 原口委員、森委員、堀内委員、村山委員、村田委員、田中委員 北村委員、川口委員 市 長 中西 茂 市民生活部 脇村部長 市民スポーツ課 郷原課長、的場係長、松元主任主事、早水主任主事
辞令交付	委員の人事異動等による欠員補充 川口委員
会長、副会長の選任	会 長 原口委員 副会長 堀内委員
議 事 内 容	(1) 鹿屋市スポーツ振興計画の改正について ①改正理由 ②改正方針 ③策定体制 (2) その他
結 果 ま と め	鹿屋市スポーツ振興計画の改正について、改正理由・方針・策定体制を原案のとおり承認され、今後、事務局で関係団体等の意見を集約し、進めることで了承された。
会議録	<p>【主な質疑等】</p> <p>(議事 1) 鹿屋市スポーツ振興計画の改正について</p> <p>委 員</p> <p>競技力向上対策について「鹿屋市アスリート育成プラン」はどのような形でもっていくのか大体の事が決まっているか。</p> <p>事務局</p> <p>「鹿屋市アスリート育成プラン」は、スポーツ振興計画のさらに下位の計画ということで位置づけていて、振興計画の 3 つの方針の一つ「スポーツ活動の推進」の一貫として競技力向上が組み込まれています。具体的には、中学校等で部活があるところは、優秀選手を集めて強化スクールを開催するように各競技団体と調整し、本年度は 2 種目で予定しています。中学校に運動部がない競技については新たにクラブ化を促すということで、競技団体ごとのクラブ設置を進めていて、これも新たに 4 種目ぐらいを今夏までに作る予定です。いずれにしても、中学校・高校と生徒を地元に残して、地元から競技力向上を図れる様な形で、合わせて指導者育成も進めているところです。</p> <p>会 長</p> <p>事務局から改正方針の 3 つの骨組みなどの説明がありましたが、まだこれもあ るのでは、ということなどありませんか。</p> <p>(特に意見なし)</p> <p>指導者育成の方針、プランは何かありますか。</p> <p>事務局</p> <p>いくつかポイントがあるが、指導者育成については指導資格、審判資格の資格取得を促進するというので、体育協会を通じて経費的な支援を本年度からするようにしています。</p>

学校との連携ということでは、学校の先生の指導者が不足し始めているので、競技団体と連携して指導者を派遣するように進めています。今後鹿屋体育大学と連携しながら指導者を調整していく、そういう取り組みも始めています。早速、いくつかの学校から教える先生がいないということで、指導者派遣の要請が何種目かありました。現在各競技団体等と調整して派遣しようとしているところです。

委員

ソフトテニス連盟の会長をしていて、中体連の先生達を招いて会議をしたが、だんだん部活をする子が少なくなっているということだ。ソフトテニス連盟でも中体連と協力して、子ども達の運動能力の向上を図ることや国体に向けての取り組みということで、大会を開催し上位に入った子を強化している。それだけでは偏ってしまうので、随時鹿屋市内の中学校を主にした大会を開催している。出来るだけ地元の高校に進学し、競技を続けていってもらえるように話をしている。また、体育協会の競技力向上についても同じような話がでていますが、違った点での話もしていただきたい。

事務局

スポーツ活動の推進のうち競技力向上については、体育協会等を中心に施策を取りまとめて「アスリート育成プラン」という形でまとめて、実施に入っている段階です。先ほどの、会長の「他に何かないか」という点でいうと、今回の計画改正で一番の課題は、生涯スポーツの振興をどう図るかというところが大きな課題だと考えています。特にこういうところをご意見いただきたいと思います。

県の計画では、週1回30分以上の運動をする割合が70%以上、週3回以上を35%以上という目標が定められています。鹿屋市は週1回については概ね近づいてきているが、週3回は半分近くの開きがあり、加えて女性の運動参加が悪く、女性の運動参加をどう促すのか、週1回運動をする方をもっと運動するようにどう促すかというようなことが課題だと考えています。子ども達の運動能力・習慣も低下傾向にあるので、お母さん方を運動に参加させながら、子ども達の運動能力もあげていく、というのが大きな課題かと思っています。

委員

生涯スポーツということで、全般的なことを言っているが、スポーツをしない人は学生時代にしていない人が多いし、結婚をして子育ての為にやめている人もいます。そういう方達は、参加したくても、受皿がないとなかなか実施には繋がらない。そういう方達が参加できるように、どういう風にしたらいいかなど何かないか。

事務局

まさにそういうところを考えていくということです。スポーツをしない方、したくても出来ない方、しようと思って出来ない方、いろんな方々にスポーツの機会提供をすることによってスポーツに関わってもらえるか、スポーツということではなく運動ということでもいいのかと思いますが、そういうことを考えていくのがこの審議会のテーマだと御理解いただき、具体的なアイデア・知恵をいただけたらと思います。

委員

スポーツをしていない多くは主婦の方で特に出る機会が少ないと思うが、そういう人達を対象にしたものを実施してはどうか。地域のミニバレーボール大会などは、一回限りの大会なので参加しやすいと思うが。

委員

来年から週3回スポーツをする実施率をすぐ上げるのは無理だと思うので、これからの5年間の計画を進めていき、少しずつ実施率をあげていくしかない。そこで、受皿をどうつくるかということだが、町内でミニバレー大会などもいいが、学校などのバレーボール大会を見ると、出来る人達がいて、世界が出来上がっているの、そこに新たに入っていくというのはハードルが高い。潜在的に「やりたい」と考えている人は多いと思うが、コミュニティが出来上がっていて中々入りづらいということもあると思う。そういう人達の受皿として、体育協会加盟の既存の競技団体は、既に競技をやっている方達なので、それ以外の人達を引っ張りあげるような時に、体育協会の種目の方々の協力をいただきながら、受皿を作っていくと難しい。そこが出来てくると、少しずつ本格的になっていき、どんどんスポーツが出来ることに繋がる。そういう協力体制を作り上げていくことが必要だと思う。

委員

高校生で部活に入っていない子どもの保護者から連絡をもらったところだが、中学の時に部活をしていたが、高校では部活に入っていない。部活には入らないでやりたいが自分達だけでは物足りない、誰かちょっと指導して欲しい、というようなのもでてくる。そういう場合の受皿をどこにもっていけばいいのか分からない。

委員

積極的に総合型スポーツクラブなどに入っていくとか、部活をやっていない子どもを対象にした教室などを活用していくのがいいのではないかな。

委員

生涯スポーツというのは、主婦や一般の方も対象にしていると思う。たとえば年間計画になっている地区ごとに開催されている講座などがあるが、参加者数が少なくて中止されるものがあるといった事も聞く。4月での参加者が少なくても、ロコミなどで少しずつ参加者を増やしていくということも必要ではないか。地域の身近なところで開催されるものに参加しやすいと思うので、一人でも多くの参加につながる政策ではないか。

委員

主婦の立場から考えると、若い世代、特に子育て世代はとにかく子育てで一生懸命。子どもの習い事等の送迎や、行事が多くて、週一回の練習でも出られない。学生時代にスポーツをしていたとか、よほど好きでないとスポーツはしていない。子育てを終わられた50代ぐらいの年配の方などは、フラダンス・社交ダンス・3B体操などを行っている方も多いようだ。ただネックになるのが時間や場所

ということだが、身近で開催されるものなら、誘い合って参加しやすいと思う。
若い世代の実施が難しいということなら、子育てを終えられた方達がしやすいようなものを増やしていけばいいのではないか。週一から、年間を通した実施になって、継続していけばスポーツ人口が増えていくのではないかと思う。

委員

子ども達の体力もどんどん低下してきていて、平成13年からやや横ばいで持ち直してきている。何が一番問題になっているかということ、中学生女子の運動時間の少なさが問題になっている。そういった子ども達が、将来大人になり子育てをするようになった時、自分達の子どもに「運動をなさい」と言えるのだろうか、ということが心配される。中学3年生が7月で一斉に部活動をやめる。受験ということもあるが、子ども達が土日に運動をする場や、運動の機会が何かあれば、週一回、または2週間に一回というように体を動かすとすれば、全くしないよりはいいと思うので、そういうことも視野に入れて欲しい。

委員

学校でも朝5分程度、スクワットなど子ども達がすぐ出来るようなことがあるのではないか。

事務局

今のところはないです。

学校では一校一運動ということを進めています、特色のある運動活動を学校内でやっています。その一貫として、花岡では貯筋運動を試行的にやっていて、一定程度の効果がでているということを知っています。学校の先生・校長先生と話をしますが、家庭でも学校でも運動をしなくなっている環境があるように感じられます。

また、子どもの運動習慣というのは親の影響が非常に強く、親の世代から意識を変えていくような取り組みをしていかないといけないのではと考えています。

この振興計画は、必ずしも小学生・中学生をターゲットにしている訳ではなく、幼児から高齢者までを対象としているので、様々な年代に応じた現状分析や対策が必要となってくると思うので、そういう観点でもご提案いただけたらと思います。

委員

鹿屋市のスポーツ実施率は何をもとにだされているか。

事務局

鹿児島県総合体育センターが実施している「平成26年度生涯スポーツ振興のための調査」結果です。県で実施されていて、鹿屋市のアンケート数108人と少ないので、今回は2,000人規模で市として単独で調査しようとしています。